

カーボベルデ第二の市 サンヴィンセント島ミンデロ（漁業と文化の街）

在セネガル日本国大使館
（カーボベルデ兼轄）

カーボベルデは10の大きな島と8の小島からなる大西洋の島国ですが、サンヴィンセント島は植民地時代から欧米諸国との商業や漁業、文化が発展し、漁業と文化の拠点となっています。透き通った海が広がり、カーボベルデの第二の市であるミンデロには市内に真っ青な海と真っ白な砂浜の海水浴場があります。

1960年代頃、ミンデロ港には日本のマグロ漁船が多数寄港しました（ミンデロ港は1990年代～2000年代初頭に日本の支援で拡張整備）。ミンデロの人たちは日本人船員の来訪を歓迎し、船員たちとの親しい交流が育まれました。そして、彼らのことを「サイコー」と言うようになり、「Sayko Dayo」と題する歌が作られました。この歌の歌詞には「サイコーダヨ」というフレーズが含まれています。カーボベルデで最も有名な歌手セザリオ・エヴォラも「Sayko Dayo」を歌っており、国民の間で大変親しまれています。

また、日本人船員はカーボベルデ人に空手を教え、ミンデロを中心にカーボベルデに空手が広まりました。

現在でも、中部大西洋で漁獲されたカジキマグロを冷凍運搬船に転載するためにミンデロに寄港する日本のマグロ遠洋漁業船があります。

また、ミンデロはカーボベルデの文化の中心としても発展しました。毎年2月～3月頃にはカーボベルデでカーニバルが開かれ、ヨーロッパやアフリカ各国から多くの観光客が押し寄せています。サンヴィンセント島のカーニバルは最も人気が高いです。

サンヴィンセント島出身の歌手として、カーボベルデの伝統音楽モルナ（2019年にユネスコ世界無形文化遺産登録）を歌うセザリア・エヴォラ、ティト・パリなどがいます。カーボベルデの多くの歌手はフランスやオランダ、ポルトガル等で活躍しています。



ミンデロ市内



セザリオ・エヴォラの壁



ラジーナ海水浴場